

バイオマス取組事例概要

《社団法人日本有機資源協会会長賞》

- ・応募主体 帯広市川西長いも生産組合
- ・都道府県・市町村 北海道帯広市
- ・取組分野 バイオマスプラスチック

取組概要

バイオマスプラスチック製の長いも栽培ネットを使用。

長いもの主要産地である帯広市川西長いも生産組合(帯広)では、長いも栽培ネットにバイオマスプラスチック製の製品を使用し、使用済資材の排出抑制、農作業の軽減、環境負荷の低減を図り、環境に優しい農業の実現に向けた取組を実施している。

長いも栽培では、茎葉がお互いにからまり成長が阻害されることを回避するため地上部にネットを設置しそこに茎葉をからめるようしているが、収穫の際には地中の長いもと地上にでている茎葉を切り離し、ネットと一緒に取り除く必要がある。

これまでのポリエチレン製ネット(PE)の場合、適切な廃棄物処理のため、茎葉とネットの分別作業が必要で、これは手作業となるため、農家にとって重労働である。



長いも栽培風景



機械によるネットと茎葉の同時巻き取り作業状況

川西長いも生産組合(帯広)では、長いも栽培ネットをバイオマスプラスチック(PLA)製のものに計画的に代替している。

PLA製の栽培ネットは従来のPE製と比べ、価格が約3倍と資材費としてはコスト高となるが、川西長芋生産組合では

- ①収穫にともなう茎葉とネットの処理が機械化される。
- ②茎葉とネットを混合した状態で堆肥化できる。
- ③野焼き等の必要がなくなる。
- ④農業用資材に関する廃プラの発生抑制ができる

といったことを考え、農業による環境負荷の低減と労働量の軽減を目指し、バイオマスプラスチック製の栽培ネットの利用を積極的に進めている。



ロールによる巻き取り処理直後



自然分解が進んだ1ヶ月後の状態